

教科等研究会（小学校図工部会）

平成30年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

どの子ども楽しく
「見つめ・感じ・つくりだす」授業づくり

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
5/26	30人	広安西小学校	8/20	広安西小学校	実技研修会	10/25	乙女小学校	永田ムツミ教諭	1/24	甲佐中学校	嘉古田剣吾教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① テーマについて

本年度の上益城郡教科等研究会全体テーマ、「一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を受け、昨年度設定したテーマをさらに継続して研究を進めていくことにした。図画工作科の目標は、「感性を働かせながら、つくりだす喜び」を味わわせることであり、「創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことにある。しかし、図画工作科の授業において、「不器用だ」「不得意だ」と苦手意識を持って過ごす子どももいる。そのような子どもたちも全員が参加でき、理解し、習得し、活動していくことができるようにすることが求められる。そのため、授業のUD化の視点を持ち、「焦点化」「視覚化」「共有化」を図り「どの子ども楽しく『見つめ・感じ・つくりだす』図画工作科の授業づくり」を研究していくこととした。

『分かる・できる』『楽しい』授業づくりのためには、興味を持つ教材・教材との出会わせ方や全員ができるための手立てなども研究していった。

② 実技研修

実技研修会では、御船町の窯元『御船窯』の津金日人詩氏をお招きし、陶芸の研修を行った。実際の粘土を使っでの研修では、特別な道具を使わなくても失敗なくできる器の作り方の実技指導をしていただいた。焼き物を作るうえでの注意点として、粘土の中に空気を入れないこと、粘土が乾かないうちに作業をすることが重要であると説明を受けた。

専門的にするには、多くの道具や技術が必要であるが、今回の研修では、小学生や中学生ができる方法をいくつも紹介していただいた。粘土のこね方は、粘土を棒状に伸ばして二つ折りにすることを繰り返してこね、均一にしていく。成形では、小さな器なら、ボールの形に丸めた粘土の中央に親指で穴を開け広げていく。ろくろがない場合は、新聞紙を折りたたんだ物を2枚重ねて、滑らせるように回していく。など、実際の授業に役立つ方法を多く学ぶことができた。また、実際に作った作品を窯元で焼いて頂いて、手にすることで焼き物を製作する喜びを感じた先生方が多かった。



③ 研究授業

授業のUD化の視点から教材研究を行った。夏期休業中の実技研修の中で、授業で扱う予定の教材を実際に作り、意見を出し合った。「どの子どもも楽しく」参加できるためには、目的意識を持って参加できるようにする工夫すること、イメージを広げさせるための資料や作品例について、どのように作ればよいか手順を明確にさせること、などについて多くの意見が出された。会員が実際に作り、アイデアを出し合うことで、多様な技法や作品ができた。



授業研究会では、誰もが楽しく参加できる工夫について多くの意見が出された。みんなが夢中になって作品を作っていたが、実際には大きな個人差があったということを知り、授業者の工夫が大きな効果を上げていたことが分かった。教材との出会わせ方、目的意識の持たせ方、作品の発表の場の設定など児童がわくわくする取組をすることが意欲の持続につながっていると考えられた。

(2) 成果と課題

- 小学校と中学校での共同で研究を行った。そのため、小学校から中学校までの系統性を考えながら研究を行うことができた。
- 実技研修の中で教材研究をすることにより、研究授業をはじめ実際の授業にも生かすことができた。
- △ 新学習指導要領実施に向けての研究をどのように進めるかが今後の課題である。
- △ 評価について課題を感じている会員が多くいる。評価についての研修を進めていきたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第5学年「段ボールで、試して、つくって」永田ムツミ教諭（乙女小学校）

本教材は、段ボールを使っていろいろな技法を組合わせて建物を作り、一つの町を作るという教材である。段ボールという素材は、低学年から繰り返し使ってきた。それらの経験を生かして作品を作っていく。しかし、児童の経験は様々で、みんなが興味を持続させて行くことは難しい。そこで本授業では、材料・参考資料や参考作品・技法の見本・ICT機器を使った作品・展示の場の設定など多くの工夫をし「どの子どもも楽しく」参加できる授業を計画された。

(2) 学習指導案

1 題材名 「だんボールで、試して、つくって」（開隆堂 図画工作5・6上）A表現2 立

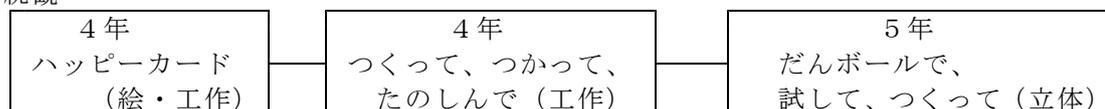
2 題材について

(1) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領の第5学年及び第6学年の目標（2）「材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。」に基づいている。A表現（2）特に「イ 形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。」[共通事項]（1）「イ形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つこと。」に重点を置いている。

本題材は、切ったり、折ったり、曲げたり、はがしたり、水につけて加工したりするなど、段ボールと十分にかかわり、いろいろ試して発見したことを生かして、表現したいものを思い付けて表す内容である。段ボールという身近な材料をいろいろ試すことから、箱や板としてとらえるだけでなく、材料としての可能性を見つけ、自分の表したいイメージを持つことができる題材である。また、段ボールという材料のよさを生かして、その使い方やつくり方を工夫して表すことができる題材である。

(2) 系統観



(3) 児童の実態（男子7名 女子11名 計18名 支援学級男子1名を含む）

図画工作・製作活動は好きだが、これまでの活動でのけがの経験や、アイデアが浮かばない、また自分の思うようにできなかったことから不安に思っている児童もいることがわかった。

1学期の図画工作の時間の実際は、楽しみにしている児童が多いが、自分のイメージをもち、表したいものをつくる、工夫することを苦手とする児童も見られた。「これでいいんですか？」と確かめながら、また「ぼくは下手だから見ないでください」と自分の作品に自信が持てない、上手くできないといけないと考えている児童、上手くいかない「失敗した」とやり直したがつたり、手が止まってしまう児童もみられた。

(4) 指導にあたっての留意点

- ・ 段ボールという材料の特徴を知ることから活動を始めたい。日常生活で使われていてなじみもあるが、まず実際に触って、様々に試す活動をしてから表現活動に入りたい。
- ・ 段ボールは児童にとって、箱型の状態で使うことが多く、丈夫で固いイメージがある、しかし、水につけると紙自体が柔らかくなり、変形することができたり、切れ目を入れると曲げて筒状にしたりすることができるので、固定概念をなくしていきたい。
- ・ 自由な試行錯誤の中でも、適度にモデル提示をしたり、適切なアドバイスをしたりすることも大切にしていきたい。
- ・ カッターナイフや段ボールカッターなどの用具についても、安全に配慮した基本的な使い方を再度指導しておきたい。接着においては、粘着テープ類ではなく、工作用接着剤を準備し、乾くまでクリップや洗濯ばさみで押さえるとよいことも紹介したい。しかし、接着に時間がかかる場合や児童の意欲が減退しそうな場合のために両面テープ等も用意しておく。
- ・ 活動を通して、友だち同士で考えたり教え合ったりする場を設けることによって、友だちとの関わり合いを深められるようにしたい。また、お互いの作品のよさやおもしろさを言葉に出して「〇〇のところがいいね」「□□がおもしろいね」と相手に伝えるようにし、自分の作業にも取り入れてよいことも伝えていきたい。

3 題材の目標

- 段ボールの折り曲げ方や組み合わせ方を試したり見つけたりして、つくりたいものをつくることができる。

評価基準

関心・意欲・態度	段ボールという材料をいろいろと試すことから、材料としての可能性に関心を持ち、表現を楽しもうとしている。
発想や構想の能力	段ボールという材料をいろいろと試すことから、材料としての可能性を見つけ、自分らしい発想を広げている。
創造的な技能	段ボールという材料のよさを生かして、その使い方やつくり方を工夫している。
鑑賞の能力	互いの表し方のよさやおもしろさを味わっている。

4 指導計画（6時間取り扱い 本時5/6）

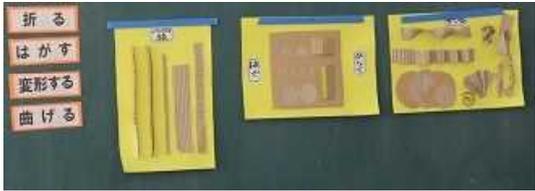
次	学習内容	評価基準
1 (1)	○オリエンテーション ○段ボールという材料をいろいろと試すことから、材料としての可能性を楽しむ。	【関】段ボールという材料をいろいろと試すことから、材料としての可能性に関心を持ち、表現を楽しんでいる。 (行動観察)
2 (4) 5/6 本時	○自分らしい発想を広げ、段ボールという材料のよさを生かし、工夫してつくる。 ・土台をつくる(2) ・飾りをつける(2)	【発】段ボールという材料をいろいろと試すことから、材料としての可能性を見つけ、自分らしい発想を広げている。 (行動観察・ワークシート) 【技】段ボールという材料のよさを生かして、その使い方やつくり方を工夫している。(行動観察・作品)
3 (1)	○友だちの作品を見合い、いろいろな表し方のよさやおもしろさを見つける。	【鑑】互いの表し方のよさやおもしろさを味わっている。 (行動観察・ワークシート・発言)

5 本時の展開

(1) 目標

発想を広げ、飾り方を工夫して、自分の表したい作品に仕上げることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	※発問・指示 ○教師の支援☆評価	備考
5	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 自分の表したい感じにあわせて作ろう </div>	<p>○段ボールを折り曲げたり、はがしたりして、自分のイメージした作品をつくったことを想起させる</p>	作品
7	<p>T: この写真を撮った人はだれですか。 これは、どこがよかったですか。</p> <p>C: 段ボールを丸めて立てています。 うすくはがして模様をつけているところがおもしろいです。</p>	<p>○事前に写真に撮っておき、見つけた友だちの作品のよさを紹介し合い提示する。</p> 	大型TV写真
2 5	<p>3 自分の表したい感じに合わせて作品に飾りをつける。</p> 	<p>※接着方法について提示し確認する。</p> <p>○いつでも確認できるように接着剤や切り込みを入れて組み合わせる方法などについて提示しておく。</p>  <p>○自分の表したい作品に合うような段ボールの組み合わせ方が主体的にできるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ☆【技】段ボールの材料のよさを生かして、飾り方を工夫している。(行動観察・作品) </div>	<p>段ボール 接着剤 テープ 洗濯ばさみ テープ (仮止め用) 両面テープ</p>
6	<p>4 段ボールタウンの場にそれぞれの作品を並べて、見合う。</p> <p>5 作品作りを振り返り、伝え合う。</p> 	<p>○作品作りで工夫したことや、並べて見て友だちの作品や町並みで思ったことなどを伝え合う。 (ハートクォールトーク)</p> <p>C: みんなそれぞれちがうものをつくっていてすごいです。</p> <p>T: やっているうちに、いろんな発想がでてきましたね。</p>	
2 6	<p>6 次時につなげる。</p>	<p>○友だちの作品を鑑賞することを伝える。</p>	